



京都市西京区 雇用就農 イチゴ、ブルーベリー栽培
青山聡子さん 2024年3月卒業

基礎から実践まで学び失敗も力に変えた学生時代

私が農業に興味を持ったきっかけは、短期大学在学中に山椒を使ったカップケーキを作り、食べた方から「おいしい」「また作ってほしい」と喜んでいただいたことです。その経験から農産物そのものに関心を持ち、実践的に農業を学びたいと思い、実習の多い農業大学校への入学を決めました。

農業大学校では、農業の基礎を一から体系的に学ぶことができました。現在は農福連携に取り組む社会福祉法人で、農業生産の管理や指導を担当していますが、在学中に身につけた基礎知識があるからこそ、状況に応じた判断や応用ができていますと感じています。特に2年生のプロジェクト活動では、自ら計画を立てて栽培に取り組む経験を積みました。当時作成した計画書は、現在も仕事の参考資料として活用しています。

プロジェクト活動時は、ナス栽培で青枯病が発生し、予想以上の被害を受けたことは強く印象に残っています。失敗から学ぶことの大切さを実感するとともに、病虫害診断の重要性を学ぶ貴重な経験となりました。

仲間とともに寮生活を送りながら過ごした日々も、大切な思い出です。

多様な農業の仕事を知り自分らしい進路を発見

就職活動の際に心強かったのは、農業大学校から求人情報を紹介してもらえたことです。農業関係の仕事について知る機会が増え、自分の進路を考える上で大きな助けになりました。学生時代、農業生産の現場を経験する中で、農業は体力を必要とする仕事であることを実感し、雇用就業に対して不安を感じていました。しかし、農業には生産だけでなく、指導や支援、観光農園の運営などさまざまな働き方があることを知りました。その中で、自分の適性を生かせる社会福祉法人向陵会の仕事と出会うことができました。福祉分野の知識がないことへの

不安もありましたが、実際に働き始めてから徐々に解消され、現在は農業と福祉を結ぶ仕事にやりがいを感じています。

利用者とともに成長し農業の魅力を伝える仕事へ

現在の仕事では、利用者の方と一緒に作業を進めながら農業の楽しさや難しさを共有できることに大きなやりがいを感じています。一方で、栽培管理についてはまだ経験不足を感じる場面も多く、農薬散布や病害虫対策などの判断については上司に相談しながら進めています。また、利用者とのコミュニケーションの取り方に悩むこともあります。その都度工夫しながら関係づくりに取り組んでいます。地域のイチゴ生産者との交流にも積極的に参加し、栽培技術の向上に努めています。今後の目標は、担当者が変わっても同水準の管理ができるよう、栽培から作業手順までをまとめたマニュアルを整備することです。誰もが安心して農業に取り組める環境づくりに貢献したいと考えています。

まず挑戦して学ぶ実践教育が成長への第一歩

農業大学校の大きな魅力は、播種から収穫、販売まで農業の一連の流れを実践的に学べることだと思います。教室で知識を学ぶだけでなく、実際に栽培しながらインプットとアウトプットを同時に行えるため、理解が深まりやすい環境でした。また、農業の基礎をしっかりと学べることも強みです。基礎が身につくことで、就職後にさまざまな場面へ応用できるようになります。実際に経験してみなければ分からないことも多く、挑戦することの大切さを実感しました。農業は思い通りにならないこともありますが、まずはやってみる姿勢が大切だと思います。考えるよりも先に行動し、失敗から学べる人にはとても向いている環境です。興味のある方はぜひ積極的に挑戦してほしいと思います。